

Newsletter

2026

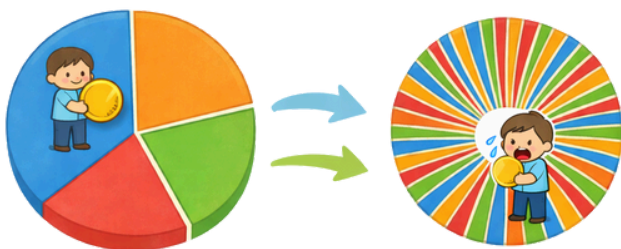
2



なるほど！投資のキホン② —— 会社はなぜ、むやみに株式を増やさない？

前は、「株を持つということは、会社のオーナーの一部になること」という話をしました。オーナーが増えれば、その分お金も集まりそうです。

それなら、会社はたくさん株を発行して、どんどんお金を集めればよさそうですね。しかしそうはなりません。



株は、会社の「持ち分」を表します。そのため、株の数が増えすぎると、1株あたりの価値や利益は分散されてしまいます。たとえば、同じ大きさのピザを8人で分けていたところに、何も増やさず16人で分けることになったら、1人分は半分になりますよね。株も同じで、**増やしすぎると「1株の重み」が軽くなってしまいます。**

株数が増えすぎると、会社全体で利益を出していても、1株あたりの成果は見えにくくなります。

とはいえ、**株が売買されても、そのお金が会社に直接入ってくるわけではありません。**

ということは、株価が上がっても、会社のお金が増えるわけではない、ということです。

それなら、株価なんて気にせず、株をどんどん発行してしまえばいい。



たとえ1株の価値が下がったとしても、会社にはお金がたくさん入ってきて、得なのでは？——そう思えてきます。しかし、実際にはそうはなりません。会社は、株式をむやみに発行することはありません。

その理由は、「株価そのもの」ではなく、「**株価が示しているもの**」にあります。

直接の収入とは関係ないはずの株価を、なぜ会社は、そこまで気にするのでしょうか。

このお話は、次回に続きます。

「なぜ？」を続ける

一見すると不思議な判断でも、そこには理由があるものです。仕事も投資も、「なぜ？」と考え続ける姿勢が、将来の差につながります。

おすすめ!



【乗り遅れたあなたに】確定拠出年金ってそもそも何ですか？

これさえ見れば、納得・安心して始められます！



Click!

